

ミッション	主な施策
3 誰一人取り残さない学びと、未来を見据えた先端的な学びを進める	(1) 確かな学力と健やかな体を育成する
	(2) 不登校児童生徒の支援やインクルーシブ教育システムの実現、夜間中学の運営などを進める
	(3) 人権、ジェンダー平等、多様性の理解を深め、他者を尊重する態度を養う
	(4) グローバルな視野で活躍するための資質・能力の育成と国際理解教育の推進を図る
	(5) ICTを日常的に活用し、リアルとデジタルの効果的な融合を進める
4 自律的で特色ある学校づくりを進め、教職員のウェルビーイングを高める	(1) 教職員が、時代の変化に対応して求められる資質・能力を身に付ける
	(2) 働きやすく、教職員同士がつながり、誰もが力を発揮できる職場をつくる
	(3) 自律的で特色のある学校をつくる
5 地域とのつながりの中で、社会全体でこどもを見守り支え、育てる	(1) 地域・企業、NPO等と連携した教育を進める
	(2) 学校と地域の連携による学校運営を進める
	(3) 教育に関する情報を社会全体で共有できるよう積極的に発信する

2 点検・評価についての基本的な考え方

(1)実施にかかる基本的な考え方

- ・地教行法第26条第1項では、点検・評価は、教育長及び事務局の事務執行を含む教育委員会の事務の管理及び執行の状況について行うこととされている。
- ・本市教育委員会では、こどもまんなか教育プランに掲載した施策を中心に点検・評価し、今後の施策や事務事業の方向性の検討に活用する。
- ・また、同法同条第2項では、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることとされていることから、外部の学識経験者を選任し、評価の内容などについて意見を聴くこととする。

(2)点検・評価の方法

①実施単位・指標

こどもまんなか教育プランの5つのミッションごとに指標を設定

<指標の出典>

- | | |
|-------------|--|
| ・ミッション1～3、5 | 令和7年度 全国学力・学習状況調査(文部科学省)
【対象:市立学校に在籍する小6・中3の児童生徒(回答者数:約13,500人、回答率:約93%)】 |
| ・ミッション4 | 令和7年度 教育委員会調査(北九州市)
【対象:市立学校に勤務する教職員(回答者数:約3,700人、回答率:約66%)】 |

②評価方法

上記の指標の達成状況に基づき、市の行政評価と同様に4段階評価を行う。

- | | |
|-------|--------------|
| ✓順 | 調(達成率100%以上) |
| ✓概ね順 | 調(同 80%以上) |
| ✓やや遅れ | (同 50%以上) |
| ✓遅 | れ(同 50%未満) |

③手順

- ・施策を所管する担当部署による自己評価
- ・学識経験者の意見聴取
- ・教育委員会会議での評価の決定
- ・議会への提出、公表

《ミッション1》全てのこどもにとって「居心地のよい学校」をつくる

KPI:学校に行くのは楽しいと思うこどもの割合

<R5実績値> 小学生:83.8% 中学生:78.9%

	R6	R7	R8	R9	R10
目標	小学生:85.0% 中学生:80.0%	小学生:86.3% 中学生:81.3%	小学生:88.0% 中学生:83.0%	小学生:89.0% 中学生:84.0%	小学生:90.0% 中学生:85.0%
実績	小学生:84.1% 中学生:80.6%	小学生:84.5% 中学生:82.6%	—	—	—
評価 〔達成率〕	概ね順調 〔小学生: 98.9% 中学生:100.8%〕	概ね順調 〔小学生: 97.9% 中学生:101.6%〕	—	—	—

(1)こどもを枠にはめず、一人ひとりのこどもの違いを尊重する

①「こどもまんなか」教育施策の推進

a こどもまんなか教育プランの浸透・実践

- ・点検・評価報告書の作成にあたり、報告書様式の刷新や評価基準の見直しを行い、視覚的な分かりやすさの向上と内容の重点化に努めた。
- ・こどもまんなか教育プランの理念浸透と実践を促すため、年次別の必須研修として、対話型の教職員研修「先生カフェトーク」を実施した。あわせて、プランの全体像を可視化したポスターを作成し、全校へ配布することで、現場における共通理解の醸成を図った。

＜先生カフェトーク研修実績＞ 全8回・約800名

- ・「明日また行きたい」と思える学校環境を実現するため、子ども家庭局の「みらい政策委員会」と連携し、こどもたちによる市長への提言を実施。提言内容を予算要望や具体的な施策に反映させることで、こどもたちの声を基点とした実効性のある教育環境の整備を推進した。

＜みらい政策委員会の提言内容＞

参加校	提言内容
大谷小学校	・体育館エアコンの設置 ・プログラミングが「身近に、楽しく」勉強できる環境を整える
大蔵中学校	・生徒一人ひとりが「自分の学びをプロデュース」できる環境をつくる ・体育館エアコンの設置
守恒中学校	・主体性を育む取組を行う ・体育館エアコンをはじめ、学校全体の空調設備を整える
板櫃中学校	・体験学習の機会を増やす ・体育館エアコンの設置

- ・小・中学校の重点的な取組を示すスクールプランの必須3項目（①「学びの転換」、②「居場所づくり」、③「教職員のウェルビーイング」）に、教育プランのミッションに合わせたものを設定し、教育プランの具現化を図った。また、各学校の特色を生かした学校教育目標の達成に向けて、PDCAサイクルを確立しながら、点検・評価を行った。

教育プランポスター



b 幼児教育水準の維持向上、幼児教育と小学校教育の円滑な接続

幼児教育センターにおいて私立幼稚園を対象に、教育面からの支援に取り組んだ。

【幼児教育水準の維持向上(3つの支援)】

①教育内容を深める支援 ②人材を育成する支援 ③特別な配慮を要する幼児への対応力を身につける支援

＜派遣等件数＞ 242件（訪問:166件 電話・来所相談:76件）※前年度比▲30件

・夕方オンライン講座の受講対象を拡大し、広く周知したため受講者が増加した。

＜受講者数＞ 299名 ※前年度比+139名

【幼児教育と小学校教育の円滑な接続】

・「北九州市架け橋プログラム検討会議」(年3回)を設置し、モデル小学校区の選定や「北九州市版架け橋期のカリキュラム」を策定した。

・就学前施設、小学校、特別支援学校の管理職および連携担当者等を対象に「保幼小連携・接続研修会」を、従来の1月から12月へと時期を早めて実施した。

＜モデル小学校区数＞ 3校区（新道寺小学校区、萩原小学校区、大谷小学校区）

＜研修会参加者数＞ 583名（当日:344名 オンデマンド視聴:239名）※前年度比+29名

c 校外施設を活用した水泳学習

・学校の実情に合わせて、費用、学習効果、教員の負担軽減、安全の確保などの要素を勘案し、原則として、

①近隣校、②公営プール、③民間プールの順番で代替プールを選定し水泳学習を実施した。

＜校外施設の利用実績＞

施設名	使用する学校
思永中学校温水プール	到津小学校・西小倉小学校・南小倉中学校・日明小学校
九州共立大学温水プール	永犬丸中学校・則松中学校・本城中学校
若松体育館温水プール	くきのうみ小学校
桃園市民プール	花尾中学校
市丸小学校	新道寺小学校

(2)こどもが人を支え、人から支えられ、自分の身を守れるように育てる

①生命(いのち)の安全教育の推進

a 「生命(いのち)の安全教育」指導の手引き(第2版)の作成

- ・医療従事者、小・中・特別支援学校の校長及び養護教諭、PTA関係者からなるオプション会議や、教育委員会内で組織されたコア会議にて改訂内容の検討を重ねるとともに、学識経験者をアドバイザーとして招聘し、小・中学校で改訂した手引きを活用して実践検証授業を実施し、専門的な指導・助言を受けた。

②人権教育の推進

a 人権教育研修会の実施

- ・教職員の人権意識の高揚を図り、児童生徒への適切な人権教育を推進するため、人権教育管理職研修会や各種人権教育研修会を実施した。
- ・学校に対し、「人権教育ハンドブック」、「新版いのち」等の資料の活用を促して、人権教育を推進した。

<人権校内研修会の実施率> 100% <「新版いのち」の活用率> 100%

③道徳教育の推進

a 北九州市道徳教育推進校の指定・推進

- ・「考え、議論する道徳」へと質的転換を図るために、北九州市道徳教育推進指定校を指定し、教科等教育研究部会等と連携して、道徳科の授業づくり研修会を集合型で実施し、研究成果を全市に発信し、成果の普及を図った。

<指定校数> 14校(小学校:6校 中学校:7校 高等学校:1校) ※前年度比+3校

- ・指定校のみならず、学校力向上訪問等で指導主事が訪問・指導助言を行い、道徳教育の更なる普及を図った。

<指導主事による訪問・指導助言回数> 15回 ※前年度比±0

(3)学校の中でも外でも、安全で安心して過ごせる居場所をつくる

①学校施設の維持管理

a 大規模改修工事の実施

・施設の長寿命化と年度ごとの費用の平準化を図るため、「北九州市学校施設長寿命化計画」に基づき、小中学校を対象として、計画的に学校施設の改修・整備を行った。

＜大規模改修工事数＞ 小学校:3校

②未来を見据えた教育環境の整備

a 小中一貫校整備検討事業

・令和7年1月の総合教育会議で提示した「北九州市型みらい教育デザイン(案)」の実現に向け、従来の学校の姿から脱却した持続可能な学校教育へアップデートするため、小中一貫校の設置を含めた、新しい時代の学びを実現する学校の検討を行った。

b 学校施設の改修

・児童・生徒の安全を確保し、安心・快適な学校生活が送れるよう、「トイレ洋式化100%大作戦」並びに「学校エアコン設置加速化大作戦」による施設環境整備を実施。また特別支援学校および特別支援学級の教室数不足等へ対応するため、計画的に小学校、中学校、特別支援学校の学校施設の改修等を実施し、教育環境の整備を行った。

＜トイレ洋式化＞ 小学校:10校 中学校:20校

＜バリアフリー化(大規模改修)＞ 小学校:3校

＜空調機器の整備(特別教室)＞ 小学校:39校 中学校:54校

＜特別支援教室の整備＞ 小学校:23校 中学校:15校

＜小倉北特別支援学校等の整備＞

小倉北特別支援学校



③学びの機会の確保

ミッション3(2)③に記載 P.35

④地域との連携

ミッション5(2)①に記載 P.61

(1)こどもを枠にはめず、一人ひとりのこどもの違いを尊重する

①「こどもまんなか」教育施策の推進

a こどもまんなか教育プランの浸透・実践

- ・報告書様式の刷新や評価基準の見直しにより、施策の透明性を高め、客観的なPDCAサイクルの基盤を強化するとともに、対話型研修やポスター配布を通じて、教職員一人ひとりが理念を自分事として捉えるきっかけを創出した。特に、市長提言を予算要望等に反映させたことは「こどもまんなか」を形にする大きな一歩となった。
- ・令和8年度は、現プラン計画期間の中間アンケート調査や、子ども家庭局の「みらい政策委員会」と連携した「こども版カフェトーク」を実施し、こどもたちが「こどもまんなか学校づくり」に主体的に参画できる場を創出する。中間アンケート調査の結果や、こども版カフェトークを通じたこどもの声を反映することで、施策の着実なブラッシュアップを図るとともに、その成果を現場での実践や、こどもたちへの分かりやすいフィードバックへと確実に繋げていく。

＜こども版カフェトーク＞ 対象：中学校1校 回数：全2回(予定)

- ・令和8年度は、学力向上のアプローチの1つである、『「AI＋読書」の強化』を達成するため、各小・中学校の重点的な取組みを示すスクールプランの必須2項目を、①「AI型学習アプリ」、②「読書活動」に変更した。各学校での必須の取組みとして、年間を通じてPDCAサイクルを確立しながら、点検・評価を行う。

b 幼児教育水準の維持向上、幼児教育と小学校教育の円滑な接続

【幼児教育水準の維持向上】

- ・3つの支援については、支援後のアンケート(支援内容が今後の実践に役立つか等の質問に対し「あてはまる」から「あてはまらない」の4段階で回答)で3.8と高い満足度を得られた。
- ・夕方オンライン講座は、テーマの1つに「架け橋プログラム」を入れ、連携・接続の重要性をさらに周知していく。

【幼児教育と小学校教育の円滑な接続】

- ・保幼小連携・接続研修会をさらに早い時期に設定し、より円滑な取組みができるよう好事例を紹介することで、年度内の各校区での実践につなげることができた。
- ・令和7年度に策定した「北九州市版架け橋期のカリキュラム」をもとに、令和8年度は各小学校区でカリキュラムを作成する。

c. 校外施設を活用した水泳学習

・令和7年度は、校外施設を活用し、計画的に水泳授業を実施することができた。令和8年度も引き続き、学校の実情に合わせて、費用、学習効果、教員の負担軽減、安全の確保などの要素を勘案し、原則として、①近隣校、②公営プール、③民間プールの順番で代替プールを選定し水泳学習を実施していく。

<利用予定の校外施設>

施設名	使用する学校
思永中学校温水プール	到津小学校・西小倉小学校・南小倉中学校・日明小学校
九州共立大学温水プール	永犬丸中学校・則松中学校・本城中学校
若松体育館温水プール	くきのうみ小学校
桃園市民プール	花尾中学校
市丸小学校	新道寺小学校
民間スイミングスクール	沼中学校

(2)こどもが人を支え、人から支えられ、自分の身を守れるように育てる

①生命(いのち)の安全教育の推進

a 「生命(いのち)の安全教育」指導の手引き(第2版)の活用

- ・令和7年度は、「性的同意」の内容を含む、「生命(いのち)の安全教育(第2版)」を作成し、教職員向けポータルサイト(せんせいチャンネル)に掲載することができた。
- 令和8年度は、本手引きを活用した授業展開が実施されるように以下のことに取り組む。

<具体的な取り組み>

- ・教科等教育研究部会での周知徹底
- ・保健主事研修での周知徹底
- ・各学校への実施状況調査を行い、実施されていない学校等の把握と今後の横展開への対策の検討
- ・「生命(いのち)の安全教育」に特化した学校訪問の検討

②人権教育の推進

a 人権教育研修会の実施

- ・令和7年度は、人権教育管理職研修会や各種人権教育研修会を通じて、教職員の人権意識の高揚を図り、児童生徒への適切な人権教育を推進することができた。令和8年度も同様に推進していく。

③道徳教育の推進

a 道徳教育の更なる普及

- ・道徳教育推進指定校において、児童生徒に対するアンケートの肯定的回答の割合が全国平均と比較しても高い水準を維持するなど、一定の効果が得られた。

<アンケート実績(指定校平均)> 小学校:91.6% 中学校:92.7% ※全国平均 小学校:88.0% 中学校:91.5%

- ・令和8年度も引き続き、北九州市道徳教育推進校を指定し、指導主事による訪問・指導助言等の支援を行うとともに、研究の成果を全市に発信し、「考え、議論する道徳」の更なる普及を図る。
- ・道徳教育推進指定校(高等学校を含む10校程度)を指定し、教科等教育研究部会等と連携して研究成果を全市に紹介し、成果の普及を図る。

(3)学校の中でも外でも、安全で安心して過ごせる居場所をつくる

①学校施設の維持管理

a 大規模改修工事の実施

- ・令和7年度は「北九州市学校施設長寿命化計画」に基づき小学校3校の大規模改修を行った。予定していた中学校1校が工事に着手できなかったが、その他は予定通り実施することができた。引き続き、施設の長寿命化と年度ごとの費用の平準化を図るため、「北九州市学校施設長寿命化計画」に基づき、計画的に学校施設の改修・整備を行っていく。

＜令和8年度大規模改修予定校数＞ 小学校:3校 中学校:1校

②未来を見据えた教育環境の整備

a 小中一貫校整備検討事業

- ・令和7年1月の総合教育会議で提示した「北九州市型みらい教育デザイン(案)」の実現に向け、高い学習効果、時代の要請に応じた学びを実現するため、「みらい学校デザイン」に着手し、「小中一貫教育」により得られる教育効果(ソフト)と、これまでにない機能や環境等を有した「新しい学校」(ハード)を併せ持つ、小中一貫校整備の検討を進める。

b 学校施設の改修

- ・引き続き、トイレ洋式化、学校施設のバリアフリー化やZEB化、空調機器の整備等に取り組み、教育環境の整備を行う。特別支援学級は依然増加傾向にあるため、引き続き整備を行っていく。

＜トイレの洋式化＞ 小学校:10校 中学校:20校

＜バリアフリー化(大規模改修)＞ 小学校:3校 中学校:1校 <ZEB化(工事)> 小学校:1校

＜空調機器の整備(特別教室)＞ 小学校:45校 中学校:55校

＜空調機器の整備(体育館)＞ 中学校:2校 特別支援学校:1校

＜LEDの更新(リース)＞ 小学校:10校 中学校:10校

③学びの機会の確保

ミッション3(2)③に記載 P.42

④地域との連携

ミッション5(2)①に記載 P.63

参考指標

	R5(基準値)	R6(実績)	R7(実績)	R10(目標)
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できると回答したこどもの割合	小学生:62.5% 中学生:65.1%	小学生:61.5% 中学生:64.0%	小学生:68.0% 中学生:71.8%	小学生:65.0% 中学生:70.0%
学校生活の中で「こわいな」「不安だな」と思ったことがあると回答したこどもの割合	小学生:23.1% 中学生:21.8%	※1	※1	小学生:15%以下 中学生:15%以下
「勤務する学校が、こどもにとって安全・安心な居場所になっている」と回答した教職員の割合	65.5%	※1	※1	85%以上
学校施設老朽化対策事業(大規模改修及び外壁改修)の工事校数	47校 (R1～5年度)	大規模改修:5校 外壁改修:7校 計12校	大規模改修:3校 外壁改修:9校 計12校	50校 (R6～10年度)

※1:「こどもまんなか教育プラン」策定のために実施した、全校アンケートでの調査項目。
令和6・7年度はアンケートを未実施。令和8年度中にアンケートを実施予定。

《ミッション2》 こどもが失敗を恐れず挑戦し、志と人間力を高められる環境をつくる

KPI:将来の夢や目標を持っているこどもの割合

<R5実績値> 小学生:81.1% 中学生:66.8%

	R6	R7	R8	R9	R10
目標	小学生:81.9% 中学生:67.5%	小学生:82.7% 中学生:68.2%	小学生:84.0% 中学生:68.5%	小学生:84.5% 中学生:69.0%	小学生:85.0% 中学生:70.0% (政令市1位の水準を目指す)
実績	小学生:82.0% 中学生:65.7%	小学生:82.4% 中学生:66.7%	—	—	—
評価 (達成率)	概ね順調 小学生:100.1% 中学生:97.3%	概ね順調 小学生:99.6% 中学生:97.8%	—	—	—

(1)こどもを「社会の構成員」として尊重し、こどもの意見を聴いて学校運営に活かす

①「こどもまんなか」の教育施策の推進

ミッション1(1)①に記載 P.9

(2)こどもも教職員も安心して挑戦し、失敗を楽しみ、成長の糧とできる環境を整える

①コミュニケーション力や生きる力を身に付ける教育の推進

a 北九州ステップアップメソッド(コグトレ)の推進

- ・コグトレ共同開発者の高知健康科学大学 宮口学長やコグトレ活用推進研究部会との連携を行い、効果的な情報提供や研修を行った。
活用研修の振り返りシートの平均値は3.8(4段階評価)であり、令和6年度に引き続いて高い結果を得られた。

b 学校部活動の振興

学校部活動の振興を図るため、以下の事業を実施した。

<部活動外部講師の配置>

- ・顧問教員に代わって専門的な部活動の指導を実施 — 176名承認(運動部:125名 文化部:51名) ※前年度比+22名

<部活動指導員の配置>

- ・単独での部活動指導や学校外での活動(練習試合等)における引率を実施 — 29名 ※前年度比±0名

<部活動指導のNPO委託>

- ・部活動指導員の活用として、地域団体に部活動指導を委託

<中体連、中文連、小体連、小文連への運営費補助・児童生徒派遣補助>

- ・中体連等が主催する大会等の運営費や児童生徒が九州大会以上の大会等に出場する際の交通費・宿泊費の一部を補助

<連携部活動・合同部活動>

- ・単独では十分な活動が行えない学校が合同で活動 — 32校 ※前年度比+2校
- ・在籍校に希望する部活動がない場合、近隣の学校の部活動に参加可能 — 66名 ※前年度比▲17名

<地域クラブの拡充>

ミッション5(1)⑥に記載 P.60

取組みと成果(令和7年度)

c こども文化パスポート事業の実施

- ・夏休みに、文化施設をはじめとする様々な施設に無料または一部割引で入場できる等の特典が受けられる「こども文化パスポート」を3歳以上中学生以下のこどもに配布した。令和7年度は、新たに公共交通機関との連携等、PR強化に取り組んだ。

<参加自治体数および利用者数>

- ・参加自治体数(施設数)：18自治体(86施設) ※前年度比+1町(+8施設)
- ・利用者数(利用率)：73,506人(47.1%) ※前年度比▲1,613人(▲1.8%)

d みらい探究プロジェクト事業の実施

- ・こどもたちが「なりたい自分」「好きなこと・得意なこと」「興味・関心をひきつけるもの」に出会い、自ら学び考え行動する「生きる力」を育む「北九州みらい探究教室」を実施した。

<プログラム数> 25 (集合型:17 オンライン型:8)

e たいけん・まなび充実大作戦の実施

- ・各学校が対象者や行先などを自由に選択し組み合わせること(アラカルト方式)により、学校の実情に応じた効果的な体験活動が行えるよう支援を実施した。

f 北九州市ラーケーション「kitaQまなぼっちゃ」の試行実施

- ・平日(登校日)に、こどもが保護者等とともに校外での体験活動を行うなど、一緒に学んだり活動したりする場合、校外での自主的な学びと捉え、学校に登校しなくても「欠席」とはしない制度(年度3日間)として、北九州市ラーケーション「kitaQまなぼっちゃ」を令和7年8月26日より試行実施した。

g 小規模校特別転入学制度の実施

- ・継続して、自然環境に恵まれた郊外の小規模な小学校(小規模特認校)に、通学区域を越えて児童が転入学できる制度を実施し、特色ある教育活動(のびのびカリキュラム)を展開した。

<令和7年度転入学児童数> 計57名 ※前年度比+2名

- ・また、本制度の内容を見直し、令和8年度転入学児童の決定に係る手続きを実施した。

<具体的な見直し内容>

- ①制度利用条件の緩和 ②募集定員の上限の設定 ③最小運営児童数の設定 ④児童募集のPR方法 ⑤学校運営へのサポート

取組みと成果(令和7年度)

②アントレプレナーシップ教育による人材育成

a 未来の起業家を育成

- ・産業経済局の「未来のアントレプレナーシップ育成事業」と連携し、起業家講話や仮想会社設立による課題解決アイデアの検討などのプログラムを計画的に展開した。

＜実施校＞ 6校（小学校:4校 中学校:2校） ※前年度比+3校

- ・企業の持つ教育資産を有効活用するため、「北九州の企業人による小学校応援団」と連携し、出前授業を実施するなど、児童生徒に多様なキャリア体験の場を提供した。

＜出前授業等・研修＞ 利用校:58校 実施:376回 ※前年度比+60回

(3)こどもが好きなことに夢中になれる環境をつくることで、知的好奇心を高め、思考力を育てる

①コミュニケーション力や生きる力を身に付ける教育の推進

ミッション2(2)①に記載 P.19-20

②特色ある教育環境の整備(市立高校)

a 「イチリツ・プロジェクト」の実施

- ・探究的な学びを軸に人材育成を目指すための学校設定科目「イチリツ・プロジェクト」を実施した。
- 特に、今年度より短期留学支援プログラム「とびだせICHIKO」として、海外留学、国内高校留学、企業留学の支援を行った。
- ・令和7年度入試より、普通科を未来共創科へ一本化した。

＜とびだせICHIKO＞

- ・海外留学:ニュージーランド1名、韓国2名、オーストラリア2名、カナダ1名。
英語力・国際的視野が向上。
- ・国内高校留学:大阪・京都へ4名、熊本へ3名。コミュニケーション能力向上と、新たな価値観との出会い、積極的に関わる姿勢の習得。
- ・企業留学:株式会社アマナ等(東京)へ1名。プレゼン資料作成スキル習得。



とびだせICHIKO

(4)社会に開かれた教育、学校外の学びや放課後活動の充実を進める

①コミュニケーション力や生きる力を身に付ける教育の推進

ミッション2(2)①に記載 P.19-20

②市民の学びを支える図書館の機能強化

a 学校図書館職員の配置

- ・全中学校区及び特別支援学校に学校図書館職員を配置し、ブックリストを用いた学習支援を行った。また、スクールヘルパー(ブックヘルパー)と協力しながら、図書室以外の場所にも読書コーナーをつくるなど、読書環境の充実を図った。
- ・「子ども読書の日」には、児童生徒同士の異学年と交流する活動が増えるなど、各学校で読書活動の取組みが展開された。

b 数理の森ライブラリー

- ・拠点校として中学校6校を指定し、理工系に関する学校図書館の充実を図った。また、学校図書館職員間で取組みの周知を図った。

c 北九州市立図書館基本計画に基づく取組みの推進

- ・年度毎に作成する事業計画の令和7年度版を作成し、市立図書館14館全体で共有することで、目指す姿の実現に向け一丸となって取組みを推進した。
- ・中央図書館開館50周年を記念した「図書館まつり」として、著名人の講演会や関連映画上映会、ブックリサイクルを実施した。また周辺の文化施設と連携した、共通テーマによる企画展示やスタンプラリーを実施し、図書館への来館促進や本との出会いの機会創出に努めた。

d 北九州市子ども読書プラン(第5次北九州市子ども読書活動推進計画)の策定

- ・子ども読書活動推進条例に基づき、第4次読書プランの成果や課題、こどもの読書を取り巻く環境の変化を踏まえ、第5次読書プランの策定を行った。(令和8年3月策定)
- ・目指す姿は継承しつつ、「学ぶ・やすらぐ・楽しむ」の3つの方向性(ミッション)に沿って、乳幼児期・小学生・中高生という発達段階に応じた読書活動の推進に向け、家庭・学校・市立図書館・地域等が連携して取組みを進める内容とした。

e 中央図書館 館内照明のLED化及びエントランスホールリニューアル

- ・館内の照明設備のLED化を実施するとともに、エントランスホールにソファやブックトラックを配置し、エントランス横のトイレを改修するなど、利用者が快適に過ごし、くつろげる空間づくりを行った。

図書館まつり



(1)こどもを「社会の構成員」として尊重し、こどもの意見を聴いて学校運営に活かす

①「こどもまんなか」の教育施策の推進

ミッション1(1)①に記載 P.13

(2)こどもも教職員も安心して挑戦し、失敗を楽しみ、成長の糧とできる環境を整える

①コミュニケーション力や生きる力を身に付ける教育の推進

a 北九州ステップアップメソッド(コグトレ)の推進

- ・宮口学長との連携を継続し、研修実施側のスキルアップ体制を維持する。
- ・より多くの教職員に対してコグトレに出会う機会を増やすことができるように広報を行い、研修会の受講率向上、振り返りシートの平均値3.9を目標とする。

b 学校部活動の振興

- ・令和7年度は、部活動の現状に「とても満足」、「おおむね満足」と回答した生徒の割合が85.3%と高い評価であったため、令和8年度も同様の事業を実施し、こどもたちの活動環境の整備や学習意欲の向上等を支援する。

c こども文化パスポート事業の実施

- ・参加自治体が1町、参加施設が8施設増加し、事業規模も拡大した。引き続き、こどもたちの体験活動のさらなる充実を図るため、関係自治体及び公共交通機関等との連携の継続や、PR強化等に取り組む。

d みらい探究プロジェクト事業の実施

- ・各プログラムにおいて多くの申込みがあったことから、令和8年度は、既存の集合型及びオンライン型に加え、市内4ヶ所の市民センターで開催するアウトリーチ型や、1dayイベント等のプログラムを新たに実施し、こどもの成長の糧につながる体験活動を提供する。